

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	齋藤 淳
論文担当者	主査 芳川 浩男
	副査 新村 健
	副査 越久 仁敬
学位論文名	Long-term outcomes of FIM-motor Items Predicted from Acute Stage NIHSS of Patients with Middle Cerebral Artery Infarct (中大脳動脈領域梗塞患者の急性期 NIHSS による長期 FIM 運動項目の予測)
論文審査の結果の要旨	
<p>MCA領域の脳梗塞患者118名を対象に、急性期病院入院時のNIHSSと、回復期リハビリテーション病院を退院時のFIM運動項目との関係性を評価した。具体的には予後予測式作成群と確認群に分け、予後予測式作成群で多重ロジスティック回帰分析を行った。解析された79名において、予測式作成群（53名）と確認群（26名）との両群で患者特性などに統計的有意差はなかった。FIM運動項目予測式は、少なくとも一つのNIHSSの項目と統計的に有意な関連を示した。患側下肢機能は13のFIM運動項目のうち11項目が長期ADL予後に重要で、患側上肢においてはFIM運動項目で、摂食、整容、清拭、トイレ動作、ベッド・トイレ・浴槽移乗が重要であった。患者特性では年齢とFIM運動項目の6項目が、発症前のmRSはFIM運動項目の5項目と統計的に有意な関連を示した。唯一、階段昇降はFIM運動項目の中で最も予測が難しい項目であり、認知障害や床効果が影響していることが予想された。本研究で導き出された急性期平均第2病日のNIHSSを用いた発症約4か月後のFIM運動項目の予測式は学術的な意義があり、学位授与に値すると評価した。</p>	